**羅臼の野生生物：海＆川**

羅臼町と国後島の間に位置する根室海峡の海域は栄養豊富で、たくさんの海洋生物を支えています。このあらゆる生物が元気に育つ環境は、毎冬、この海峡にたくさん流れ込んでくる新鮮で酸素が豊富に含まれた水の存在によるものです。この流氷下で起こるプランクトンの爆発が、小さなホウネンエビから巨大なマッコウクジラまで、海洋生物のライフサイクルを刺激しています。季節により、羅臼では展望デッキやツアーボートからクジラ、トド、イルカ、ネズミイルカ、アザラシ、サケなどを見ることができます。

クジラ

クジラは移動性の生物で、食料源によりその移動行路が決まります。根室海峡には安定した餌と深海があるため、クジラはほぼ1年中この海峡にいます。ツチクジラ（2月～10月）、マッコウクジラ（7月～9月）、ミンククジラやシャチ(4月～7月)が、それぞれの季節に、毎年、この海域へ餌を求めてやってきます。クジラの見える丘公園の見晴らしの良い場所からクジラを観察するか、ホエールウォッチングツアーに参加して近距離でクジラを見てみましょう。

アザラシとトド

知床には、ゴマフアザラシやクラカケアザラシが毎冬やってきます。また、トドは周期的に12月から4月にかけてこの辺りで活動的になっています。トドの大多数は妊娠しているメスで、根室海峡の豊富な食料源で栄養を得ています。トドは、ボートツアーで観察しましょう。

サケ

知床を流れる川にサクラマスやオショロコマが住んでいるという事実は、いずれの淡水種も生存には純粋な水質を必要とすることから、その水の純度が高い証しとなっています。太平洋に棲むカラフトマスやシロザケは、8月から9月にかけて、産卵するため知床を流れる川へ向かいます。ここを訪れた際は、根室海峡の海岸沿いにある複数のスポットで9月から11月にかけて、上流へ向かって移動するサケを目にすることができます。